

2023年5月社長会見

2023年5月19日

1. 営業・輸送概況
2. JR西日本グループの地球環境保護の取り組み
3. 車両側面カメラを用いた画像解析装置の開発・検証開始
～ホームの安全対策～

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、4月はコロナ前の2019年比で84.1%、5月は14日までで89.3%です。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況は、山陽新幹線は、4月が2019年比で80%、5月が14日までで90%。近畿圏は、4月が98%、5月が14日までで98%です。

4月は、3月と比較しますと、2019年のゴールデンウィークが10連休で大変好調だったこともあり、回復は鈍化傾向にみえますが、このゴールデンウィークは、ご旅行や帰省等の需要の高まりから、前年を大きく上回るご利用をいただきました。特に、北陸新幹線では、5月3日に、1日あたりのご利用が、開業以来過去最高となる、4万4千人となるなど、首都圏～北陸エリアの長距離移動が好調でした。

5月8日から、新型コロナウイルスが感染症法上の「5類」に移行となり、社会経済活動の正常化に向け、国内外からの旅行や観光、ビジネスなどの需要がさらに高まることを期待しています。

当社グループとしましても、安全安定輸送を基盤に、多様化するニーズに対応した施策を展開し、引き続き、ご利用の拡大に努めてまいります。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同月比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
4月	121.6% (84.1%)	121.1% (100.8%)	136.1% (78.3%)	100.7% (85.6%)
5月(5/1~14)	119.6% (89.3%)	118.9% (100.9%)	128.3% (88.1%)	98.3% (80.2%)

※実績は直営の速報値。駅などの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。
※ () 内は、コロナ前の2019年同月比。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同月比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏
4月	146% (80%)	150% (80%)	170% (73%)	115% (98%)
5月(5/1~14)	137% (90%)	131% (93%)	153% (84%)	113% (98%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績の前年同月比。
※ () 内は、コロナ前の2019年同月比。

2. JR西日本グループの地球環境保護の取り組み

次に、地球環境保護の取り組みについてです。

地球環境に関する課題は、先月の「気候・エネルギー環境大臣会合」、本日からの「G7広島サミット」での主要なテーマとなるなど、社会的に極めて重要視されており、JR西日本グループにおきましても、重要な経営課題の一つとして、取り組んでいるところです。

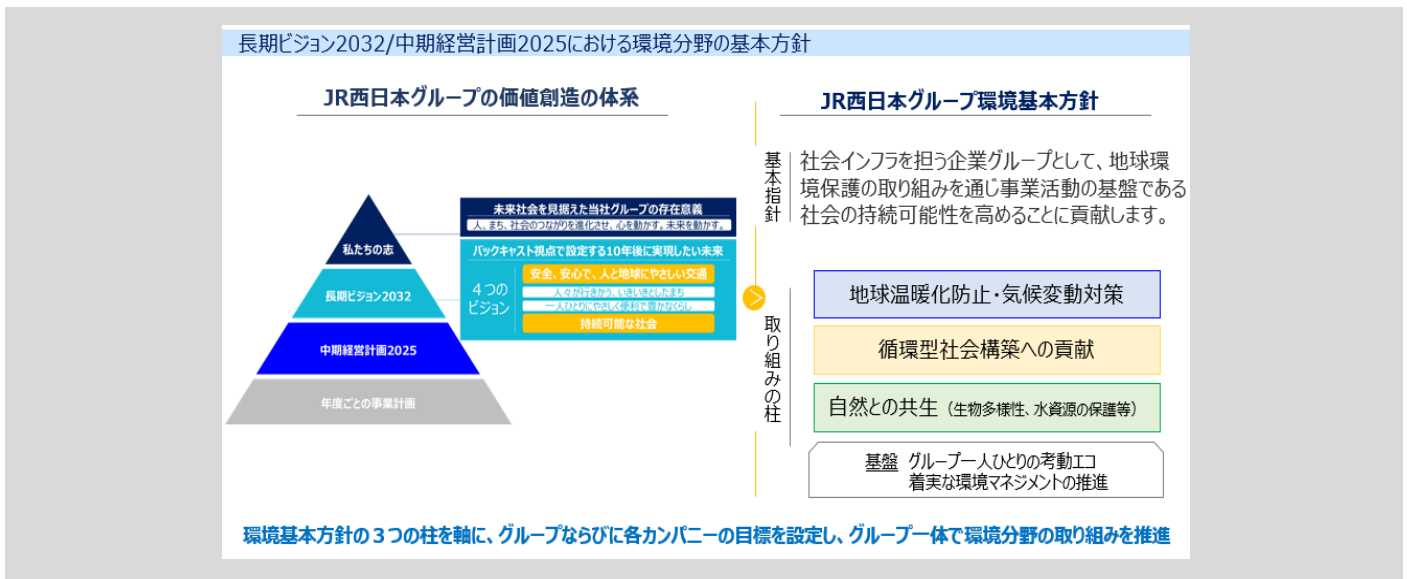
本日は、JR西日本グループの環境分野の取り組みの基本方針、中期経営計画における具体的な取り組み分野や目標について、ご紹介します。

まず、「JR西日本グループ環境基本方針」についてです。

去る4月28日に公表しました、「JR西日本グループ長期ビジョン2032・中期経営計画2025」の中でも、「安全、安心で、人と地球にやさしい交通」や、「持続可能な社会」を「実現したい未来」の中に掲げ、環境をはじめとするサステナビリティの取り組みを一層推進していくこととしています。

今回、グループ全体の環境の取り組みの指針として、「JR西日本グループ環境基本方針」を策定いたしました。社会インフラを担う企業グループとして、環境保護の取り組みを通じて、持続可能な社会づくりに貢献していきたいということを明確にするとともに、「地球温暖化防止・気候変動対策」「循環型社会構築への貢献」「自然との共生」の3つの分野を柱として、取り組みを進めてまいります。

また、これらの分野でグループならびに各カンパニーで環境目標を設定し、グループ一体で環境の取り組みを推進します。



次に、3つの分野の主な取り組みについてです。

「地球温暖化防止・気候変動対策」では、2050年のカーボンニュートラルをめざす環境長期目標「JR西日本グループゼロカーボン2050」における、2030年度の削減目標を、2013年度比46%と従来していましたが、50%に上方修正しました。

この目標達成に向けて、「省エネルギー型の車両導入」を推進するほか、2025年度に気動車営業列車への「バイオディーゼル燃料の実装」を目指してまいります。

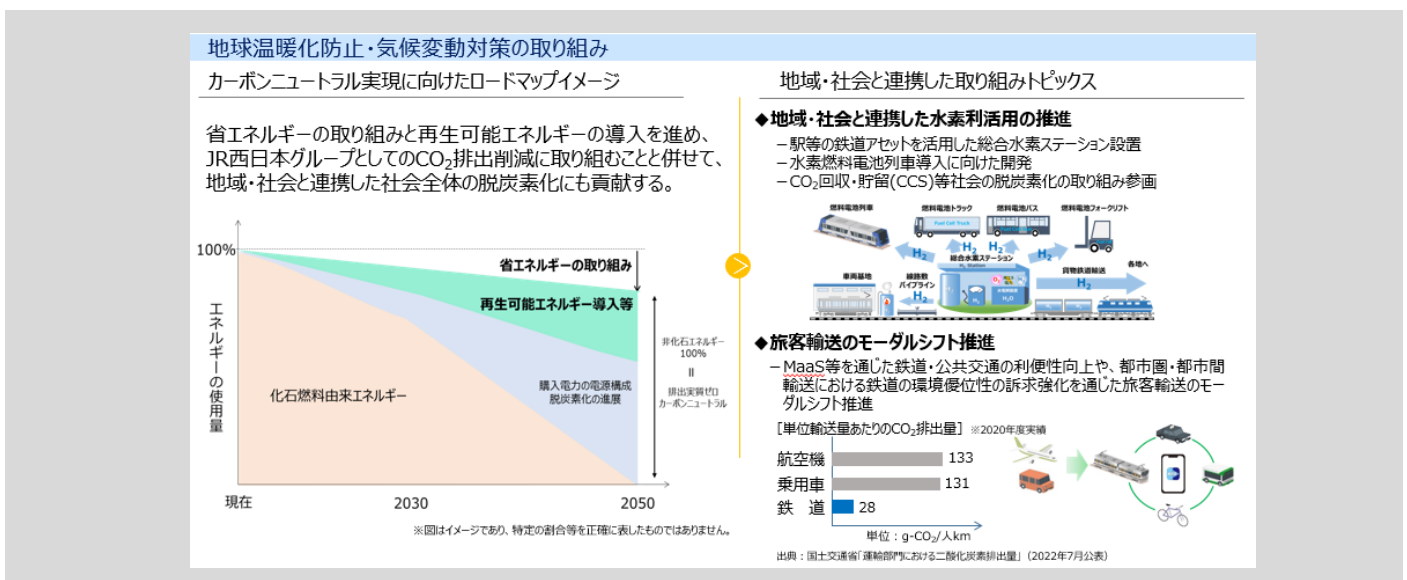
また、これまで大阪駅（うめきたエリア）や、JRゆめ咲線で導入してきた「再生可能エネルギー」について、新幹線や大阪環状線の列車運転用電力として、大規模な導入にも着手します。

目標値としては、2027年度末に、列車運転用電力のうち、「新幹線で10%」、「大阪環状線及びJRゆめ咲線では100%」を、再生可能エネルギー由来の電力で調達していきたいと思っています。特に、新幹線の運転用電力に関して、目標を定めて、大規模な再エネ導入に取り組むのは、国内初の事例になります





また、2030年度以降も、さらなる省エネルギー、再生可能エネルギーの導入を軸に、2050年のカーボンニュートラル達成に向けた取り組みを進めてまいります。

さらに、「鉄道アセットを活用した総合水素ステーションの設置」や「水素燃料電池列車の開発」をはじめとする水素利活用の推進、「旅客輸送のモーダルシフト」を促進する取り組みなど、地域・社会と連携した社会全体の脱炭素化に貢献できるよう取り組みを進めていきます。



次に、「循環型社会の構築」においては、資源のリサイクルを進めるほか、重要性が高まっている「脱プラスチック」の取り組みとして、ホテル事業におけるプラスチック使用量の削減やPETボトルの水平リサイクルの実施に取り組みます。また、「自然との共生」においては、水の使用量削減や生物多様性に配慮した事業活動に努めます。

これら、プラスチック使用量の削減や水の使用量の削減といった分野でも、グループとして初めて目標を定めて取り組みます。社会インフラを担う企業グループとして、グループ一体で環境保護の取り組みを推進することを通じて、長期ビジョンに掲げる「持続可能な社会」の実現にこれからも寄与し、未来を動かしてまいります。

循環型社会構築への貢献・自然との共生の取り組み	
<p>循環型社会構築への貢献</p> <p>◆廃棄物の資源リサイクルの推進</p>  <p>廃車解体時の徹底した分別・リサイクル</p> <p>◆脱プラスチックの取り組みの推進</p> <p>—使い捨てプラスチック使用量の削減 —PETボトルの水平リサイクルの推進 など</p>  <p>♻️ 資源を再利用 リサイクル</p>	<p>主眼目標指標(2025年度)</p> <p>○リサイクル率(鉄道)</p> <p>駅ごみ・列車ごみ 99% 設備工事資材 97% 車両関係資材 95%</p> <p>New</p> <p>○プラスチック製品使用量の削減(ホテル)</p> <p>プラスチック製アメニティ等の環境配慮素材転換率 100% など</p> <p>New</p> <p>○PETボトル水平リサイクル提供量(グループ)</p> <p>年間提供量 50t</p>
<p>自然との共生(生物多様性、水資源の保護等)</p>	
<p>◆水使用量低減の取り組みの推進</p> <p>—雨水活用や循環水の再利用 —節水型トイレの整備 など</p>  <p>車両洗浄機での雨水活用や循環水の再利用を通じた工業用水使用量の削減</p>	<p>主眼目標指標(2025年度)</p> <p>New</p> <p>水使用量 (連結売上高当たりの原単位の低減)</p> <p>6.5m³/百万円</p>
<p>◆生物多様性の保護に資する事業運営の推進</p> <p>—汚水削減、資材の低環境負荷素材への置き換え推進 —生態系に配慮した河川工事の施工 など</p>   <p>塗料等の低環境負荷素材への置き換えによる 河川工事での汚濁防止フェンス設置といった 水質・生物多様性への影響低減 水系や生物多様性に配慮した施工</p>	

3. 車両側面カメラを用いた画像解析装置の開発・検証開始 ～ホームの安全対策～

次に、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」に掲げる、ホームの安全対策の一環として、「車両側面カメラを用いた画像解析装置」の開発・検証を開始いたしますので、ご紹介します。

車掌が乗務せず、運転士が車両ドアを開閉する運転方式をワンマン運転といいます。現在、当社でワンマン運転を実施する際は、運転士がホーム上に設置しているカメラ・モニタやミラーを用いて、安全を確認しながら列車を発車させています。

既に、「JR西日本技術ビジョン」における「持続可能な鉄道・交通システムの構築」に向け、これら地上設備の車上化・シンプル化を目的として、2022年1月より、車両側面カメラ・車載モニタを用いたワンマン方式の検証を行っているところです。

今回、この検証に加えて、より一層の安全性向上に向け、列車が発車する際に、万が一、ホーム上で列車に接近するお客様がいらっしゃった場合に、自動で検知するシステムの検証を新たに行っていきます。

ワンマン運転時のホームの安全確認方法

- ・ワンマン運転では、ホーム上のカメラ・モニタやミラーを用いて安全確認を実施
- ・地上設備の車上化・シンプル化を目的として、2022年1月より車両側面カメラ・車載モニタを用いたワンマン方式の検証を実施中

ホーム上のミラーによる安全確認



車両側面カメラ・車載モニタによる安全確認



地上設備の
車上化・シンプル化



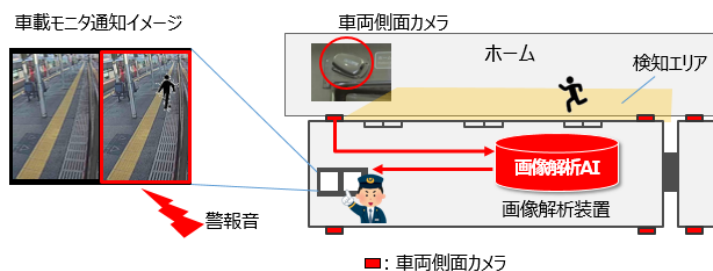
このシステムは、現在すでに、一部車両において、検証用に設置している車両側面カメラの映像を、AIによりリアルタイムに画像解析し、車両側面から一定範囲内に近づくお客様を検知した場合に、車載モニタへの表示と警報音を通じて、運転士に通知する仕組みです。

ホーム上の安全性をより一層高めるための技術開発

車両側面カメラの映像から、列車に接近するお客様を自動で検知するシステムの検証を新たに開始

■システムの仕組み

- ・車両側面カメラの映像をAIによりリアルタイムに画像解析
- ・車両側面から一定範囲内に近づくお客様を検知した場合に、車載モニタへの表示と警報音を通じて運転士に通知



今後、6月以降、広島エリアを中心に運行している、一部列車の映像データを収集し、検知精度の検証を開始します。

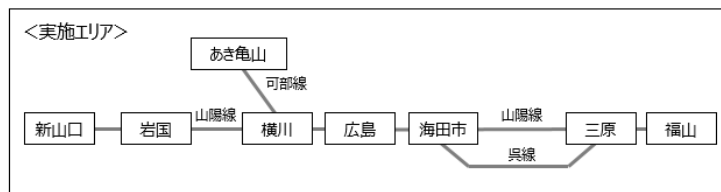
今年度を検証期間とし、24年度に実用化の見極めを実施していく予定です。これにより、ワンマン運転におけるホーム上の安全性が、より一層高めていければと期待しています。

今後の予定

広島エリアを中心に運行している一部列車の映像データを収集し、検知精度の検証を実施

■ 検証の実施概要

- ・実施エリア：山陽線（福山～新山口）、可部線、呉線
- ・検証期間：2023年6月以降～ 2024年3月予定（2024年度 実用化見極め）
- ・検証車両：227系 1編成



※検証期間中、列車の運行にこのシステムを使用することはありません